

自然保護寄附講座

講義

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
0A0A001	自然保護セミナー	1	1.0	1 - 5	春BC秋A 秋BC	随時		飯田 義彦	自然保護にかかわる基礎的な理論や様々な研究・実践事例を講義し、グループディスカッション、エクスカージョン、学生による発表などを合わせて、自然保護学への理論的、実践的な理解を深める。	人社棟B218他。要望があれば英語で授業。対面(オンライン併用型)
0A0A002	自然保護論	1	1.0	1 - 5					自然保護の歴史と理念、生物種の保護、生態系の管理、保護地域の設定	2024年度開講せず。
0A0A003	地球環境論	1	1.0	1 - 5	秋A	金3, 4		角替 敏昭, 八木 勇治, 鎌田 祥仁	地球の歴史と環境保全、生命維持の基礎となる地球環境の保全	オンライン(オンデマンド型)。オンライン(同時双方向型)
0A0A004	保護地域管理論	1	1.0	1 - 5	夏季休業中	集中		飯田 義彦	保護地域の計画・管理の概念と展開について概説する。特に国立公園・国定公園の管理に関して、筑波山や自然公園における草原環境維持の視点から学ぶ。	非常勤講師：八巻一成。人社棟B218(予定)。9/28-9/29 対面
0A0A005	景観・緑地保全論	1	1.0	1 - 5	秋ABC	随時		伊藤 弘, 黒田 乃生	自然環境やさらには住環境の基盤である緑地と、それらを視覚的に捉えた結果である景観の保全について、その意味するところと保全に対する考え方や手法を、事例を踏まえて概説する。また、実際に保全活動が行われている現場にてその実態を見学する。	人社棟B216他。対面
0A0A006	ユネスコエコパークとジオパーク	1	1.0	1 - 5	秋ABC	集中		飯田 義彦	ユネスコの科学プログラムとして運営されているユネスコエコパーク(生物圏保存地域)と世界ジオパークは科学的な知見に基づいた保全と地域振興の両立を図る国際的な地域認証制度である。本科目は、生態系や地形地質の保全、観光や教育への活用、持続的な地域振興といったさまざまな活動事例を通じて、その理念や仕組み、効果的な運営について学ぶことを目的とする。	人社棟B218他。対面
0A0A007	生物多様性論	1	1.0	1 - 5					生物多様性の概念とその保全手法について、理論と実践の双方から理解を深めることを目標とします。具体的には、(1)生物多様性の概念や現状について理解すること、(2)生物多様性の基礎的な調査・解析方法について理解すること、(3)自然と調和した社会を築いていくために必要な事項を学び、自分なりの意見を持つこと、を目標とします。文系、理系問わず、いろいろな専門分野からの学生の履修を歓迎します。	2024年度開講せず。
0A0A008	Wildlife Management	1	1.0	1 - 5	秋ABC	集中		上條 隆志	Wildlife management encompasses the conservation of threatened species, control of unwanted species, and sustainable harvest of resource species. We shall study principles and techniques of managing wild animals by exploring the ecological processes affecting wildlife and discussing challenges in the human-nature interface.	英語で授業。対面
0A0A009	モニタリング調査技術	1	1.0	1 - 5					生物多様性地理情報とGIS：生物多様性に関するモニタリング情報をGIS(地理情報システム)を使って表現、分析する手法を学ぶ。	2024年度開講せず。
0A0A010	自然保護行政論	1	1.0	1 - 5	秋C	集中		飯田 義彦	自然保護行政に係る環境省自然環境局等の実務経験者から政策形成やガバナンスの実態を学ぶ。	非常勤講師：渡邊綱男。対面
0A0A011	自然保護法制度	1	1.0	1 - 5					環境基本法、生物多様性基本法、自然環境保全法、自然公園法、文化財保護法、種の保存法等の理解	2024年度開講せず。
0A0A012	環境影響評価	1	1.0	1 - 5	秋ABC	集中		飯田 義彦	環境影響評価制度実務者から、環境影響評価、戦略的環境影響評価(SEA)、生物多様性オフセットなどを学ぶ。	非常勤講師：傘木宏夫
0A0A013	生態系の保全と復元	1	1.0	1 - 5	秋ABC	集中		上條 隆志	森林、湿地、里山、都市など様々な生態系の保全と復元について、自然を守りながら、持続的に利用していくための理念と実践例について学ぶことを目的とする。授業は、講義、関連文献の精読、ディスカッション、プレゼンテーションなどを主体とする。キーワード：自然保護、生物多様性、生態系サービス、モニタリング、気候変動、人と自然との関係ほか	対面
0A0A014	自然保護教育と環境教育	1	1.0	1 - 5	秋ABC	集中		飯田 義彦	自然保護分野における教育活動の意義と展望、具体的手法などについて、座学と野外実習により学ぶ。	非常勤講師：鳥山由子 対面
0A0A015	サイエンティフィック・ジャーナリズム	1	1.0	1 - 5					プロフェッショナル・サイエンスライターの直接の指導を受けながら、自然保護に関わる実務者・研究者への取材等を通して、文章構成力などを習得することを目的とする。取材先の選定から文章執筆に至るまでプロによる直接指導を受ける。	2024年度開講せず。

0A0A016	科学と社会のコミュニケーション	1	1.0	1 - 5						生物多様性条約第15回締約国会議(COP15)で採択された「昆明—モントリオール生物多様性枠組」や保護地域や保護地域以外の効果的な保全制度(OECM)に関わる最前線について、専門家の方々のお話を伺うことにより、生物多様性の世界目標をめぐる動向を知ると同時に、それを地域において実現するにはどうしたらよいかを考える。	2024年度開講せず。
0A0A017	モニタリング調査技術2	1	1.0	1 - 5						モニタリングの意義、モニタリング調査の立案と実行、フィールド調査技術、データ解析。環境や生態系などの実態を把握する上で、モニタリングをいかに進めていくかが重要となる。本講義では、モニタリング調査の具体的事例を挙げると共に、計画の立案からデータ解析に至るまでの流れを内容に盛り込む。	2024年度開講せず。
0ANB712	遺伝子多様性学特論	1	2.0	1	秋AB	金1,2	生農G501	渡邊 和男, 小口 太一		生物多様性の基盤となる遺伝的変異について、植物を主体例として、生物学的な観点から論じる。遺伝子多様性に関わる保全、産業利用や知的所有権について社会、経済、法律及び国際関係の観点を含め序説的に講述し、一般的理解を提供する。生物多様性と遺伝的多様性の概論、21世紀の戦略的な国家資源としての遺伝資源の学際的論議、遺伝子多様性の生物学、遺伝的多様性の測定について遺伝学的理論及び分子生物学を主体とした測定技術の紹介、生物多様性の保全について学際的アプローチによる生態域内保全及び生態域外保全、ジーンバンク、バイオリソースセンターと植物園などの関係の紹介、保全の技術の解説及び遺伝的多様性の産業利用と国際的関心事項の総合討論を行い、基礎的理解を得る。	科目等履修生の海外からのオンライン受講は不可。
0ANE322	植生学	1	1.0	1 - 2	秋B	火1,2		上條 隆志, 清野 達之, 川田 清和		植生は陸域景観の主要な構成要素である。この講義では、植生学、世界の植生、植物群集の分布に関する気候および土地的要因、植生の動態、および植生に対する人間の影響について後述する。特に、熱帯雨林、日本の森林、砂漠、草原に着目する。また、植生調査の現場実習も行う。	理科系B107で実施。02JZ009と同一。02JZ009と同一。対面(オンライン併用型)
0ANE323	Vegetation Science	1	1.0	1 - 2	秋A	火1,2		上條 隆志, 清野 達之, 川田 清和		Vegetation is a major component of our landscape. In this course, students learn concepts of vegetation science, world vegetation, climatic and edaphical factors on distribution of plant communities, vegetation dynamics and human impacts on vegetation. Tropical rainforests, Japanese forests, deserts and grasslands are focused in this course. Students also learn field practices of vegetation survey.	理科系B107, 02JZ010と同一。02JZ010と同一。対面(オンライン併用型)
0ATV103	自然遺産論	1	1.0	1 - 2	春AB	集中	人社B218	飯田 義彦, 吉田 正人		自然遺産保全の基礎となる自然保護、生物多様性保全を学ぶとともに、自然遺産と関連する保護地域制度と自然遺産との関連性についても考究する。とりわけ、世界自然遺産の登録基準、世界自然遺産のセイフティーネットとしての危機遺産リスト、外来種や気候変動のモニタリング、保護地域のネットワークと国境を超えた世界遺産などの事例を考察する。	
0ATV202	UNESCO and the World Heritage Convention (ユネスコと世界遺産条約)	1	1.0	1 - 2	秋A	集中		上北 恭史, 飯田 義彦, 池田 真利子		ユネスコ世界遺産条約は、国際遺産分野で最も影響力のある制度として、個々の遺産の保護・保全の実際から、各国の遺産政策や行政の展開に至るまで、加盟国に重要な指導的枠組みを提供してきた。本講義では、世界遺産条約の歴史、理念、運用スキームを網羅しながら、世界遺産条約とその周辺で展開された国際的な議論の全体像を解説する。	非常勤講師：稲葉信子
0ATV203	World Heritage and International Cooperation (世界遺産と国際協力)	1	1.0	1 - 2	春BC	集中		飯田 義彦, 池田 真利子, 肥後 時尚		世界文化遺産・世界自然遺産に関する国際協力の事例をもとに、文化遺産・自然遺産の保全に関する国際的枠組みの成果と課題を学ぶ。合わせて、日本の国際協力に関する枠組みについても取り上げる。	非常勤講師：長岡正哲(ユネスコ) 外部講師：長谷川基裕(JICA) 英語で授業。
0ATV204	World Heritage and Civil Participation (世界遺産と市民参加)	1	1.0	1 - 2	春季休業中	集中		池田 真利子		本講義では、1) 現在の世界遺産が直面する課題を的確に知り、2) その背景にある地域の実情を多角的かつ分野横断的にみること、さらに3) 世界遺産の維持のために必要不可欠とされている市民参加の在り方を、世界遺産に限定せず、広くヨーロッパの遺産保存の在り方から探ること、4 世界遺産の多様化、5EUにおける最新の文化遺産を巡る動向を理解することを通じて、世界遺産における市民参加がどのようにして実現されるのかを考えることを目標とする。	英語運用能力が求められる。(日本語話者向け) 対面、オンライン(同時双方向け) 2024年度は対面講義(教室で国内外の大学とオンラインで接続する可能性はある)を予定する。
0ATV205	World Heritage and Sustainability (世界遺産と持続可能性)	1	1.0	1 - 2	春BC	集中		飯田 義彦		持続可能性概念について様々な保全制度と地域実践事例から学ぶ。自然と文化の遺産管理において、持続可能性概念や国連の持続可能な開発目標(SDGs)をいかに結びつけて社会実装を進めるか。その上で、持続可能な社会づくりに向けたグローバルとローカルの協働のあり方と将来方策についての自身の考えを深める。	英語で授業。

OATV206	Role of International Organizations and NGOs (国際機関の役割)	1	1.0	1・2	秋B	木5,6		池田 真利子, 飯田 義彦, 肥後 時尚	修士・博士課程の学生は、ドイツやイタリアなどの西欧諸国だけでなく、旧東ドイツなどの東欧諸国やインドなどの南欧諸国における最近の国家的・地域的・地域的背景を知ること、現代の「グローバル世界」において遺産とアイデンティティがどのように関連しているかを学ぶ。遺産保存の分野では、市民参加に根ざした実践は、特に1980年代以降、特定の地域的・政治的文脈によって、多くの成果を上げてきた。しかし、実利主義的な学術的言説は、国や地域の文脈を無視する傾向があり、「遺産化」や「組織化」に伴う対立も生じている。本講演では、30年以上にわたって実践的、理論的、そして学術的な見解に基づいて遺産学という学問分野を発展させてきたLeo Schmidt教授、Alexandra Skedzuhr-Safir教授（いずれもドイツBTU）、Jens Casper教授ら（エアフルト応用科学大学）の協力を得て、オンライン上でさらに学術的な議論を展開する。	英語運用能力が求められる。（日本語話者向け）参考）IELTS総合スコアが6.5程度 英語で授業。 対面、オンライン(同時双方向型) 2024年度は対面講義（教室で国内外の大学とオンラインで接続する可能性はある）を予定する。
OATV207	International Conventions for Heritage Conservation (国際条約論)	1	1.0	1・2	春BC	集中		飯田 義彦, 池田 真利子, 肥後 時尚, 堀江 正彦	この授業では、地球環境の保全、遺産の保護と開発に関する国際条約と、世界中の様々な国々の事例研究を通じて、急速に変化する社会において、どのように遺産と共存し、環境を保全するとともに、持続的な社会を実現するかを学ぶ。	非常勤講師：堀江正彦、外部講師：鈴木渉 英語で授業。 対面
OATV406	インタープリテーション概論	1	1.0	1・2	秋ABC	集中			自然遺産、文化遺産の価値を伝えるインタープリテーションに関してその歴史と概念を知るとともに、国立公園等の現場における利用者の環境意識とインタープリテーションとの関係などを学ぶ。	

実習

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時間	教室	担当教員	授業概要	備考
0A0A101	海域フィールド実習	3	2.0	1-5	夏季休業中	集中		和田 茂樹, アゴスティアーニ シルバン, レオナー ジョージ	下田臨海実験センターにおける海洋自然体験活動実習。普段の生活の中では、海はその表面しか見ることができない。しかし、海の自然を知り保護していく上で、海の中の生物や環境を詳しく知ることが不可欠である。本実習では、実際に受講生が海の自然を体験し、その中でどのような生物・環境が生態系を構築しているのかを洞察することを目標とする。自然を保護するためには、実際にどのような環境や生物が自然の生態系を形作っているかを知らなければいけない。本実習では、下田臨海実験センターで実際にフィールド調査を実施し、海の生物や環境の複雑性を体験し、海の自然保護の理解を深めることを目的とする。	下田臨海実験センター。 9/16-9/20 要望があれば英語で授業 本実習は対面で実施する。定員5-14名
0A0A102	陸域フィールド実習1	3	1.0	1-5	春C夏季休業中	集中		上條 隆志	自然保護、特に陸域の生物多様性保全・希少野生生物の保全について学ぶ。実習地はハケ岳周辺とする。	ハケ岳実習(3泊4日を予定)は夏季集中として実施する。また、事前学習と事後学習を行う。日程の詳細については、自然保護寄付講座のウェブサイトと掲示により行う。宿泊、移動の関係から人数制限を行う場合がある。英語でも対応する。定員7名程度(応相談)
0A0A103	陸域フィールド実習2	3	1.0	1-5					本実習は、(1)大学近郊の里山を訪ね、身近な自然のもつ特徴を理解する、(2)里山の保全活動がされているNPOの方にお話をうかがい、成果や課題などについて学ぶ、(3)動物センサーカメラを設置し、自ら野生生物のデータを取得・解析して、管理者の方に管理手法の提案をする(グループワーク)、ということを目指します。	2024年度開講せず。
0A0A104	保護地域管理実習	2	1.0	1-5	春C夏季休業中 秋ABC	集中		飯田 義彦	国立公園や身近な自然地域などでの保護管理やインタープリテーションの実態や課題を学ぶ。	対面
0A0A105	野生生物管理実習	2	2.0	1-5	春C夏季休業中 秋ABC	集中		上條 隆志	生態調査技術や人為的影響の評価技術を習得する実習を実施する。本実習では、野生生物管理に関わる問題や調査技術についてグループディスカッションを行い、生態調査技術の習得と生態系保護の現状と課題を理解することを目標とする。	自然保護寄付講座履修生のみ受講可能。現地実習の他に、事前学習と事後課題を行う。今年度の実習開催地については、実習開催地については、掲示等で周知する。Wildlife Managementの履修を推奨。

0A0A106	自然保護学特別実習	3	1.0	1 - 5	秋C春季休業中	集中	上條 隆志	自然保護学の実践の場において、その自然環境、自然保護の取り組み、問題点について実習形式で学ぶ。具体的には、伊豆大島を対象として、火山地質、植生、希少野生生物、外来種問題、植物の盗掘問題などの現状を実際のフィールドを歩くとともに現地の自然保護活動家との議論から学ぶ。国立公園、ジオパーク、自然愛好会などの活動をしている人との議論を通じて、自然保護の課題と今後の在り方について理解を深める。	集中形式で実施する。秋Cに事前学習を行い、大島現地実習(2泊3日を予定)は春季休業集中を予定、のちに事後学習を行う。日程の詳細については、自然保護寄付講座のウェブサイトと掲示により行う。宿泊、移動の関係から人数制限を行う場合がある。英語でも対応する。今年度は伊豆大島をフィールドとするが、来年度以降のフィールドは変更される場合がある。要望があれば英語で授業 定員7名程度(応相談)
0A0A201	短期インターンシップ	3	1.0	1 - 5	通年	随時	飯田 義彦	国、地方自治体、民間企業、自然保護団体等における短期間(のべ10日以上20日未満)のインターンシップ。勤務内容は自然保護に関係するものとする。	自然保護寄付講座サーティフィケートプログラムを受講している大学院生のみ履修可能。学生向け説明会に参加して情報を得ること。対面
0A0A202	中期インターンシップ	3	2.0	1 - 5	通年	随時	飯田 義彦	国、地方自治体、民間企業、自然保護団体等における、のべ20日以上40日未満のインターンシップ。勤務内容は自然保護に関係するものとする。	自然保護寄付講座サーティフィケートプログラムを受講している大学院生のみ履修可能。学生向け説明会に参加して情報を得ること。対面
0A0A203	長期インターンシップ	3	3.0	1 - 5	通年	随時	飯田 義彦	国、地方自治体、民間企業、自然保護団体等における長期間(のべ40日以上)のインターンシップ。勤務内容は自然保護に関係するものとする。	自然保護寄付講座サーティフィケートプログラムを受講している大学院生のみ履修可能。学生向け説明会に参加して情報を得ること。対面
0A0A204	海外インターンシップ	3	5.0	1 - 5				自然保護寄付講座開講の趣旨として、国際的な視野を持ち、自然保護の現場で活躍することのできる学生を育てることがあります。国際自然保護連合(IUCN)や国連教育科学文化機関(UNESCO)、生物多様性条約事務局等の海外に事務所をおく国際機関において、一定期間以上、海外に渡航して、インターンシップを行う海外インターンシップに対して、インターンシップ報告書、受け入れ団体の評価に基づいて、標記の単位を与えたとともに、旅費、滞在費の支援を行います。詳細は「インターンシップ制度について」の通りですが、IUCNインターン	2024年度開講せず。
0A0A205	海外自然保護特別研究	6	3.0	1 - 5				自然保護寄付講座開講の趣旨として、国際的な視野を持ち、自然保護の現場で活躍することのできる学生を育てることがあります。筑波大学と国際交流協定を結んだ大学において、自然保護に関する研究を目的に留学する学生に対して、留学中の授業のみならず、現地の自然保護に関する事例研究を行い報告書を提出することを条件に、標記の単位を与えたとともに、旅費、滞在費の支援を行います。詳細は「海外留学について」の通りですが、オーストラリアのタスマニア大学の場合、毎年2月末から6月はじめにかけて、自然保護地域の管理に関する授業がありま	2024年度開講せず。
0ATV104	自然遺産演習	2	2.0	1・2	夏季休業中	集中	飯田 義彦, 吉田 正人	自然遺産地域における現地調査を通じて、自然遺産地域の保全と管理、およびそれに対する地域住民や専門家の参加について学ぶ。自然遺産地域の管理計画、科学委員会・地域連絡会議を通じた専門家、地方自治体、地域住民、NPOなどの役割分担と協働、外来種対策やエコツーリズムなどの事例を現地調査から学ぶ。	
0ATV208	Project Practice in UNESCO-designated Area (ユネスコ地域演習)	2	2.0	1・2	春C夏季休業中	集中	飯田 義彦	国内外におけるフィールド実習を通じて、遺産保護と持続可能な開発のバランスを取るための方策について、現地の関係者の取組や国際的な視点の双方から学ぶ。	現地実習(石川県白山市) 英語で授業。